

〔科目名〕 科学への探求	〔単位数〕 2 単位	〔科目区分〕 専門科目
〔担当者〕 三浦英樹	〔オフィス・アワー〕 時間： 講義後または適宜(事前のメール連絡で時間調整します) 場所： 研究室(大学院棟 1203 室)	〔授業の方法〕 講義と演習
〔科目の概要〕 本講義では、地域みらい学科の「知の冒険計画」(興奮の過程・科学の過程・創造の過程)を意識しながら、地域みらい学科において卒業論文をまとめる過程で必要となる、科学(自然科学、社会科学、人文学)の方法や手続きの基礎を、実践的な演習も取り入れながら習得することを目的とします。具体的には、① 研究課題の設定方法、② 情報の収集方法、③ データと情報の整理・分析方法、④ 結果のまとめ方と表現方法、を取り上げ、自己の学びや経験を、有機的・学際的に結びつけて、分野横断的に地域社会の課題解決に向けて活用・展開できる能力の習得を目指します。進捗状況に応じて、シラバスの内容や演習内容は、柔軟に変更する場合があります。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・「なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 現代社会には、様々な地球規模の課題、地域の課題が山積しています。これらの課題に対して、主体的に関わること、意味のあるプロジェクトに取り組むこと、具体的な解決策を考えることが求められています。地域みらい学科では、地域を対象としたフィールドワークを行い、そこで得られたデータや経験に基づき、地域の課題に対して新しいアイデアや企画を生み出し、最終的に卒業研究に結びつけていくことが求められます。そのためには、科学的かつ論理的にデータ収集やフィールドワークを実行して、現場で見たこと、聞いたことから、自ら問いを立て、それらを様々な科目で学んだ内容と有機的に結びつけて展開させていく必要があります。この講義では、研究の基本的な流れを学ぶことによって、ひとつの学問分野だけでは収束しないことが多い、地域みらい学科の卒業研究に向けた準備と心構えを身につけることができます。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 ① 研究課題の設定方法、情報の収集方法、データと情報の整理・分析方法、結果のまとめ方と表現方法の概要について理解すること ② 演習によって上記の方法を具体的に活用できる能力を身につけること		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 地域みらい学科では、学習導入演習、卒業論文の書き方について学ぶ教科がないため、科学論の基礎と合わせて、論理的なものの考え方や、学術的な文章の書き方や学術論文の取りまとめの方法を含む授業としている。配布資料が多いとの指摘があったが、予習・復習のために配布しているので、是非、活用して、知識・教養を身につけていただきたい。		
〔教科書〕 なし。各回で、必要に応じ、資料を配付します。		
〔指定図書〕 なし。		
〔参考書〕 池上 彰 (2022) 『池上彰の教養のススメ』 日経ビジネス人文庫。 池上 彰・上田紀行・伊藤亜紗 (2021) 『とがったリーダーを育てる 東工大「リベラルアーツ教育」10年の軌跡』 中公新書ラクレ。 上坂博亨・大谷孝行・里見安那 (2021) 『コミュニケーション力を高めるプレゼン・発表術』 岩波ジュニア新書。 上野千鶴子 (2018) 『情報生産者になる』 ちくま新書。 上野ゼミ卒業生チーム (2021) 『情報生産者になってみたー上野千鶴子に極意を学ぶ』 ちくま新書。 上田紀行編著 (2020) 『新・大学で何を学ぶか』 岩波ジュニア新書。 梅棹忠夫 (1969) 『知的生産の技術』 岩波新書。 枝廣淳子・内藤 耕 (2007) 『入門！システム思考』 講談社現代新書。 小熊英二 (2022) 『基礎からわかる論文の書き方』 講談社現代新書。 追手門学院大学成熟社会研究所編 (2020) 『一人で思う、二人で語る、みんなで考える 実践！ロジコメ・メソッド』 岩波ジュニア新書。 梶田 真・仁平尊明・加藤政洋編 (2022) 『地域調査ことはじめーあるく・みる・かへー』 ナカニシヤ出版。 梶丸 岳・丹羽 朋子・椎野 若菜 (編) (2016) 『フィールドノート古今東西』 古今書院。 川喜田二郎 (2017) 『発想法 改版』 中公新書。		

川喜田二郎原作(2019)『まんがでわかる発想法—ひらめきを生む技術』中公新書。 木下是雄 (1981)『理科系の作文技術』中公新書。 後藤芳文・伊藤史織・登本洋子 (2014)『学びの技 14 歳からの探究 論文 プレゼンテーション』玉川大学出版部。 清水 展・飯嶋秀治 (2020)『自前の思想 時代と社会に応答するフィールドワーク』京都大学学術出版会。 田村 学 (監修)・廣瀬志保 (2022)『高校生のための「探究」学習図鑑』学事出版。 戸田山和久 (2020)『教養の書』筑摩書房。 戸田山和久 (2021)『思考の教室 じょうずに考えるレッスン』NHK 出版。 戸田山和久 (2021)『「科学的思考」のレッスン 学校で教えてくれないサイエンス』NHK 出版新書。 戸田山和久 (2022)『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK BOOKS。 中嶋 洋 (2015)『初学者のための質的研究 26 の教え』医学書院。 名古屋隆彦 (2017)『質問する、問い返す—主体的に学ぶということ』岩波ジュニア新書。 沼崎一郎 (2019)『初めての研究レポート作成術』岩波ジュニア新書。 本多勝一 (2015)『＜新版＞日本語の作文技術』朝日文庫。 藤垣裕子・柳川範之 (2019)『東大教授が考えるあたらしい教養』幻冬舎新書。 水上大地 (2014)『21 歳男子、過疎の山村に住むことにしました』岩波ジュニア新書。 宮武久佳 (2017)『正しいコピーのすすめ—模倣、創造、著作権と私たち』岩波ジュニア新書。 宮本常一・安溪遊地 (2008)『調査されるといふ迷惑—フィールドに出る前に読んでおく本—』みずのわ出版。 元村有希子 (2019)『カガク力を強くする!』岩波ジュニア新書。 山下佑介 (2020)『地域学をはじめよう』岩波ジュニア新書。 山田ズーニー (2019)『伝わる・揺さぶる! 文章を書く』PHP 新書。 徐本理史・佐無田光 (2020)『きみのまちに未来はあるか?: 「根っこ」から地域をつくる』岩波ジュニア新書。 吉本哲郎 (2008)『地元学をはじめよう』岩波ジュニア新書。
〔前提科目〕 ありません。
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ① 講義の時間では、「リアクションペーパー」の時間を設けて、その場で提出してもらいます。都度、指示に従って、講義を受けて感じたこと、自分が考えたこと、講義内容への質問や意見などを自由に記述してください。おもしろい重要な意見・質問は、できるだけ、次の講義の冒頭で紹介・回答します。 ② 演習の時間では、個人またはグループ(6～7 人程度のチーム編成)で行い、最終結果を図や文章として作成、提出あるいは発表します。 ③ 「最終レポート」の課題は、指示する課題に対して記述してください。一般論や他人の借り物の考えではなく、自分の中にある問題意識と照らし合わせて、自分自身の深い考えや自分が思うところ、感じたことを記述して下さい。
〔評価の基準及びスケール〕 ① 「リアクションペーパー」では、感じたこと、自分が考えたこと、講義内容への質問や意見など、記述内容から、総合的に評価します。 ② グループとして行った演習の結果は、最終的にグループまたは個人で図や文章としてまとめて提出して、作業が十分に理解されて実行されていることを総合的に評価します。 ③ 「最終レポート」は、課題の要件を満たしていること、他人が理解できる文章を書いていること、自分の中にある問題意識や考えを自分なりの言葉で表現していること、を基準にして評価します。 ④ 総合的な評価は、「リアクションペーパー」の評価 40%、「演習の取り組み」への評価 30%、「最終レポート」の評価 30% の比率で、すべてを合算して、合計 100 点満点(A:80 点以上、B:70～79 点、C:60～69 点、D:50～59 点、E:50 点以下)で評価します。
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 深刻な地球環境問題、情報化やグローバル化が進展する時代の過渡期にある現代社会では、予測が不可能なことが多く、昨日まで正しかったことが、急に正しくなくなるなど、難しい判断が必要な時代になっています。このような環境では、自ら課題を発見し、答えを求める能力が必要不可欠になってきます。しかし、様々な地域の課題に対して、どのように考え、どう判断すべきか、新しい科学や思想を生みしていくのは、簡単なことではありません。実際に、社会に出ると、ゆっくり考えている時間はさらに少なくなり、家庭や職場で、日々の現実の生活が続き、押し流されていくのが普通です。大学でじっくり考えることができる時間と機会、経験は、このあとの長い人生でも貴重な財産になるはず。一緒に議論し、試行錯誤しながら、私も考えていきたいと思っています。
〔実務経歴〕 該当なし。
授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 「科学への探求」の講義・演習の目的 内 容: 地域みらい学科のホームページの内容確認と学科の存在意義。高等学校までの勉強と大学の学問との違い。「科学への探求」の目的と概要。 教科書・指定図書: なし
第2回	テーマ(何を学ぶか): ① 研究課題の設定方法: (1)地球規模の課題、地域の課題と研究の進め方 内 容: 地球規模の課題と地域の課題の概要。地域について考える。研究の進め方の概要。論文を書くということ。 教科書・指定図書: なし
第3回	テーマ(何を学ぶか): ① 研究課題の設定方法: (2)発想の方法と思考方法のツール 内 容: 様々な発想の方法と思考方法のツールの紹介と具体例。 教科書・指定図書: なし
第4回	テーマ(何を学ぶか): ① 研究課題の設定方法: (3)続・発想の方法と思考方法のツール 内 容: 様々な発想の方法と思考方法のツールの紹介と具体例。 教科書・指定図書: なし
第5回	テーマ(何を学ぶか): ① 研究課題の設定方法: (4)続・発想の方法と思考方法のツール 内 容: 様々な発想の方法と思考方法のツールの紹介と具体例。 教科書・指定図書: なし
第6回	テーマ(何を学ぶか): ① 研究課題の設定方法: (5)課題の設定と具体化、仮説の設定・分析・検証、先行研究の調査と課題の修正・変更 内 容: 具体的な課題の設定方法の過程の説明と具体例。 教科書・指定図書: なし
第7回	テーマ(何を学ぶか): ② 情報の収集方法: (1)情報収集の方法・整理法と情報源としての図書館 内 容: 情報収集の準備と方法、得られたデータ・情報の整理方法の紹介と具体例。 教科書・指定図書: なし
第8回	テーマ(何を学ぶか): ② 情報の収集方法: (2)インターネット、統計資料の活用 内 容: インターネット、統計資料の活用方法の紹介と演習。 教科書・指定図書: なし
第9回	テーマ(何を学ぶか): ② 情報の収集方法: (3)続・インターネット、統計資料の活用 内 容: インターネット、統計資料の活用方法の紹介と演習。 教科書・指定図書: なし
第10回	テーマ(何を学ぶか): ② 情報の収集方法: (4)情報としての体験活動、実験と観察、インタビュー、アンケート調査 内 容: 具体例体験活動、実験と観察、インタビュー、アンケート調査の方法の紹介と具体例。 教科書・指定図書: なし
第11回	テーマ(何を学ぶか): ③ データと情報の整理・分析方法: (1)図表と思考ツールによる整理の方法 内 容: 収集した情報やデータを図表や思考ツールを使用して整理する方法の紹介と具体例。 教科書・指定図書: なし
第12回	テーマ(何を学ぶか): ③ データと情報の整理・分析方法: (2)続・図表と思考ツールによる整理の方法 内 容: 収集した情報やデータを図表や思考ツールを使用して整理する方法の紹介と具体例。 教科書・指定図書: なし
第13回	テーマ(何を学ぶか): ④ 結果のまとめ方と表現方法: (1)レポート、論文の構成と書き方 内 容: レポートと論文の構成と書き方、引用文献の書き方の紹介と具体例。 教科書・指定図書: なし
第14回	テーマ(何を学ぶか): ④ 結果のまとめ方と表現方法: (2)続・レポート、論文の構成と書き方 内 容: レポートと論文の構成と書き方、引用文献の書き方の紹介と具体例。 教科書・指定図書: なし
第15回	テーマ(何を学ぶか): ④ 結果のまとめ方と表現方法: (3)プレゼンテーションの方法 内 容: スライドとポスターによる発表資料の作成方法の紹介と具体例。 教科書・指定図書: なし